

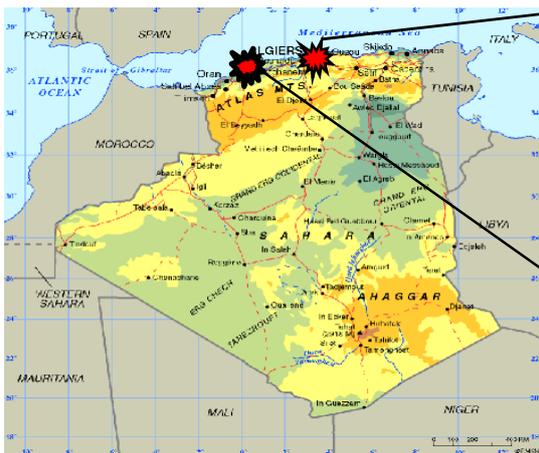
地震災害

在アルジェリア日本国大使館

アフリカでの地震災害はあまり聞き慣れない方も多いかもかもしれませんが、アルジェリア北部地域はユーラシアプレートとアフリカプレートの境界に位置し、地中海は年に5～6cmほど圧縮されているため、日本同様にアルジェリアも地震国で、過去に大規模地震で多数の被害者が出ているという点で共通しています。

過去、両国で大規模な地震災害が起こるたびに両国の連帯関係が示されてきました。1995年の阪神・淡路大震災の際はアルジェリアから巨大テント90張りが提供され、砂嵐にも耐えられるように作られているため大いに役立ち、それは「アルジェリア・テント」と親しみをもって呼ばれました。2003年のブーメルデス地震（死者約2,300人）では、迅速に日本は国際緊急援助隊90人を派遣するとともに、震災で被害にあった小中高の学校施設の再建を支援しています（「教育セクター震災復興事業」（2005年6月L/A調印, 19.43億円）。2011年の東日本大震災ではアルジェリアから1,000万ドルの義援金が提供されています。

最近でも、2003年のブーメルデス地震を受けて設立されました国立地震工学研究センター（CGS）との耐震実験に関する短期専門家派遣の協力プロジェクト等を実施するなど、伝統的に相互支援の関係が続いています。



●2003年5月21日ブーメルデス地震（マグニチュード6.8）
震源に近いブーメルデス市、アルジェ市を中心に多数の建物が倒壊し、死者約2,300人、負傷者は約11,000人。

●1980年10月10日エル・アナム地震（マグニチュード7.1）
アルジェリア北部の人口密集地域で起こり、多数の建物が倒壊し、少なくとも死者約2,600人、負傷者は約8,400人。津波も発生したほか、邦人にも犠牲者。

（了）